

令和2年3月31日

府中市議会議長
横田 実 様

府中市議会都民ファーストの会
渡辺 将 

行政視察について（報告）

このことについて、次のとおり報告します。

- 1 日 時 令和元年7月30日（火）～8月1日（木）
- 2 視察地及び視察事項
 - (1) 岩手県遠野市「遠野市の災害対応行政（総合防災センター及び遠野市後方支援資料館）について」
 - (2) 岩手県釜石市「ラグビーのまち釜石の取り組みについて」
 - (3) 宮城県岩沼市「第2次岩沼市健康づくり市民計画に基づく市の取り組みについて」
- 3 視察内容及び所感
別紙のとおり

府中市議会都民ファーストの会

行政視察 報告書

2019年7月30日～8月1日

渡辺 しょう 将

行程

7月30日(火)

府中本町駅 ^{JR 武蔵野線} → 大宮駅 ^{東北新幹線} → 新花巻駅 ^{JR 釜石線} → 遠野駅
市役所送迎 → 遠野市防災センター → 遠野市後方支援資料館 → 遠野駅
市役所送迎
野駅 ^{JR 釜石線} → 釜石駅 ^{徒歩} → 宿泊先

7月31日(水)

宿泊先 ^{市役所送迎} → 釜石鵜住居復興スタジアム ^{市役所送迎} → 鵜住居駅
三陸鉄道 → 釜石駅 ^{JR 釜石線} → 新花巻駅 ^{東北新幹線} → 仙台駅 ^{JR 東北本線} → 岩沼駅
徒歩 → 宿泊先

8月1日(木)

宿泊先 ^{市役所送迎} → 岩沼市役所 ^{市役所送迎} → 千年希望の丘交流センター
市役所送迎 → 岩沼駅 ^{JR 東北本線} → 仙台駅 ^{東北新幹線} → 大沼駅 ^{JR 京浜東北線} → 武蔵
浦和駅 ^{JR 武蔵野線} → 府中本町駅

岩手県遠野市 7月30日

視察目的…遠野市の災害対応行政（総合防災センター及び遠野市後方支援資料館）について

視察場所…遠野市総合防災センター・遠野市後方支援資料館

説明者…総務企画部防災危機管理課

遠野市…遠野市は、内陸に人口集中 沿岸まで遠野市から1時間 へりで15分。
遠野市は、沿岸部の後方支援に向けた土地である。

遠野市総合防災センター、後方支援資料館にて、遠野市災害対応行政について、職員の菊池さんが説明された。

遠野の後方支援について、遠野テレビの15分のDVDを見た。

以下、遠野市の震災の歴史を伺った。

- ・明治29年の明治三陸地震では、200円の支援金を議会で決めた。
- ・平成19年 三陸地域災害後方支援拠点施設整備構想

同年 岩手総合防災訓練（自衛隊と連携した訓練）

11月 三陸地域地震災害後方支援拠点施設整備推進協議会

- ・平成20年10月 震災対処訓練みちのくアラート さらに訓練重ねる
- ・平成23年3月11日 午後2時46分

震度5強 本庁が全壊 インフラも甚大な被害

市内の2000人が被害

市役所にテント設営 避難勧告

午後3時 遠野市運動公園を後方支援拠点として開放

これまでの訓練の成果で後方支援がスムーズに展開

- ・平成23年3月12日 午前4時50分 大槌町へ職員派遣

3月22日 大槌町へボランティア派遣

3月28日 後方支援室設置 14万食の炊き出しを大槌町へ

遠野まごころネットにボランティア統合

遠野中学校への献本活動など

その他「医 職 住」「えにしプロジェクト」の取組み

- ・平成23年7月25日 自衛隊撤退

静岡県からの職員派遣は7ヶ月

- ・平成24年3月18日 後方支援のつどい

その他

東京都武蔵野市 大阪府大府市 熊本県菊池市から職員派遣
研究機関などが復旧機関として機能 遠野市連携調整会議
『遠野市後方支援活動検証記録誌』伝え続ける取り組み

質疑

「市長のリーダーシップで特徴的なことは？」

- ・市長は県の防災課長として県内を歩いた。
- ・市長は防災ヘリを導入。防災面に精通していた。
- ・備蓄しているものを被災地に送ったわけではなく、4000万円分を新たに購入した。
- ・その他、遠野市のグラウンドが2シーズン使えなかった。2億円の修復にかかった。

「財政面 国庫支出金が減らされているのでは？滞納が多くなっている。生活保護も増加しているのか？また、住宅事情はどうなっているのか？」

- ・財政面は担当者不在で答えることができない。

「明治時代に大規模地震があった。次に大規模地震がきても大丈夫か？」

- ・防災公園、県の防災拠点となる意識付けがされている。
- ・施設で必要なものはなく、広さがあればいい。
- ・次に地震があっても同じ活動をする。

「水平の自治体関係を県がどのように指導するのか？県が後方拠点整備でどのような対応をしているのか？」

- ・遠野市には県の拠点もある。広域避難、岩手県知事からの要請で受け入れる。

「市役所の本庁はできたか？」

- ・平成29年7月に開庁した。

所感

遠野市は、災害時に沿岸地域への支援の拠点となった。

災害時は、首長のリーダーシップが発揮され、遠野市は早い段階で大槌町の災害支援を行った。

また、日ごろの訓練が重要で、訓練を積んでいのおかげでいざという災害時に適切な行動がとれたのだと考える。



岩手県釜石市

視察目的…「ラグビーのまち釜石」の取り組みについて

視察場所…釜石市鶴住居復興スタジアム

説明者…釜石市市議会副議長 山崎氏、釜石市職員 増田氏

釜石市…4国4県と同じ面積がある。「鉄と魚のまち」だったが、新日鉄釜石ラグビーの連覇により「鉄と魚とラグビーのまち」として有名になった。

説明者の釜石市の増田さんは、日本ラグビー協会出身、釜石シーウェーブスの事務局を務めた。

副議長の山崎氏より、釜石市の紹介があり、その後、増田さんの説明、および、釜石鶴住居復興スタジアムを見学しながらの説明があった。

- スタジアムの総工費は48億7800万円
- スタジアムの芝には、ハイブリッド芝が用いられており、2億5000万円、芝刈りはボランティアが行った。
- グラウンドは約110000㎡
- 6000席の常設、10000席の仮設の収容が可能

所感

ラグビーワールドカップ前に、鶴住居復興スタジアムの見学ができてよかった。釜石市は、府中市以上に「ラグビーのまち」という自負があり、町のいたるところで、ラグビーが行なわれたり、旗が掲げられていて町全体でラグビーを応援していることがわかった。「ラグビーのまち」として、商業施設や公園で子どもたちがラグビーをしたり、ラグビーをもとにまちづくりをする取り組みは府中市においても参考になると考える。



宮城県岩沼市

視察目的…「第2次岩沼市健康づくり市民計画」に基づく市の取り組みについて

視察場所…岩沼市役所、千年希望の丘

説明者…岩沼市議会副議長 櫻井氏、健康増進課 菅原、清水氏

岩沼市…岩沼市には有名な竹駒神社という三大稲荷があり、50万人が来訪する。岩沼市は、交通の要衝であり、常磐線と東北線の2線が市内を走っている。日本製紙岩沼支店があり、工業団地が多い。

副議長の櫻井隆氏が説明された。

東日本大震災では、地域の半分が浸水し、犠牲者もでた。説明された副議長宅も一部倒壊した。

江口市長の発案で、「岩沼市健康づくり市民計画」が作られた。

本計画の詳細については、健康増進課の菅原、清水さんが説明された。

「第二次岩沼市健康づくり市民計画」は第一次を踏襲した内容になっている。

自助を基本とし、自助・共助・公助についての取り組みを記載している。健康増進法第8条をもとに作られ、計画期間10年となっている。

507指標を用意し、それぞれ数値目標を掲げている。

要介護2以上を不健康と市ではとらえている。

等の説明があった。

その後、櫻井副議長とともに、千年希望の丘の視察を行った。

・千年希望の丘は、居住禁止となった区域を活用した復興を象徴するメモリアル公園。土台に震災瓦礫を活用した15基の避難丘である人口丘。沿岸部10kmに6公園と園路がある。

所感

健康増進法第8条に基づいて作成された健康づくり計画だが、きめ細かな内容となっており、府中市も参考にするべきところが多いのではと感じた。

千年希望の丘は、津波の時に、避難するための丘となっていて、津波と同じ高さの慰霊碑には名前と亡くなった時の年齢も記載されており、小さな子どもたちの名前が多数記載されており、ショックを受けた。



全体を通して

今回、市民フォーラムの会派の方々と、一緒に視察させていただき、東日本大震災から8年経っても復興は完全にされておらず、いまだに避難所で暮らしている方も多いということがわかった。

また、遠野市のように、避難訓練をしっかり行うことによって、有事の際の行動が明確化するため、念入りに避難訓練を行うことが重要であると考えた。また、岩沼市では、慰霊碑に書かれた記載によって、多くの子どもたちが津波の犠牲になったことがわかった。

府中市においても、災害がいつ起こるかわからないので、社会的な弱者を守る仕組みづくりを日々行っていく必要があると、本視察を通して改めて感じた。

また、釜石市のラグビーにかける思いは非常に強く、同じくラグビーのまちとうたう府中市は釜石市から学ぶことが多いのではないかと感じた。